

Letter for Members

【コンテンツ】

- 初のWEB会議開催 1
- 支部学術大会報告 2
- 令和元年度日本歯科医学会会長賞を受賞して11
- 2019 International Seminar of the Indonesian Prosthodontic Association (IPROS)および
22nd Executive Council Meeting of the Asian Academy of Prosthodontics (AAP)
開催・参加報告12
- The International College of Prosthodontists Meeting 2019 参加報告14
- 公益社団法人 日本補綴歯科学会第5回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'19」の報告15
- 47th Indian Prosthodontic Society National Conference Raipur 2019報告16
- カボデンタルシステムズ株式会社との協定書調印式17

初のWEB会議開催

新型コロナウイルス感染症対策のため、3月27日の会務連絡会・定時理事会・委員長会・支部長会をWeb上で行いました。最初は少し戸惑いもありましたが、リスクも減り、費用と時間の節約にもなりました。写真は、Web会議システムZoomで会議を行っている画面です（画面には全員が映っているわけではなく、25名までしか写りません）。

配付資料は、従来と同様にネットで事前配付してありますが、会議中に参加者全員で共有して見ることもできました。画面右には参加者のリストが出て、議事に対する賛否を表示することもできますが、今回の議決は挙手で行いました。会議中ずっと顔が表示されることから、一定の緊張感を保つことができます。

今回の会議では、非常に重要な案件が協議されました。第129回学術大会は、通常開催、延期および中止とはせず、誌上とWeb会議システムを併用する形態での開催を検討することとし、4月20日の週を目途に、研修単位の認定、認定医・専門医試験、ならびに経費等を含めた学術大会開催方法について、大会長の古谷野先生と協議し、学会HP、代議員メーリングリスト、会員メルマガ等でアナウンスすることと致しました。

なお、4月24日に誌上・WEB開催の詳細が発表されました。専

門医ケーブル、認定医・専門医試験、イブニングセッションは延期、国際セッション、ハンズオン、ランチョン、懇親会等は中止ですが、シンポジウム等はWEB開催です。当日登録はありませんので、6月12日までに事前登録をお願いいたします。最新情報は学会ホームページをご覧ください。

緊急事態における学会活動のサポート媒体として、Web会議システムはかなり有効であることがわかりました。セキュリティ対策をしっかりと整備しつつ、第129回学術大会をはじめ今後の各種委員会活動等にも積極的に導入することといたします。先生方におかれましては、引き続き、健康に留意されますとともに、本学会発展のためにご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。（理事長 大川周治）



支部学術大会報告

●東北・北海道支部学術大会

去る10月19(土)、20(日)の両日、令和元年度東北・北海道支部総会・学術大会を、奥羽大学歯学部歯科補綴学講座、関根秀志を大会長として、郡山市市民交流プラザで開催いたしました。今回の学術大会の特別講演では、佐々木啓一先生に「バイオメカニクス・メカノバイオロジーに基づく補綴歯科治療プランニングの展望」のテーマでご講演いただきました。併催の市民フォーラムでは、山口泰彦先生に「義歯やお口の機能のトラブルを補綴(ほてつ)歯科で解決しましょう!」と題してご講演いただきました。シンポジウムでは、「補綴歯科治療へのデジタル技術の応用」をテーマとし、大久保力廣先生に「有床義歯製作におけるCAD/CAM応用の現状と将来展望」、疋田一洋先生には、「デジタル技術を応用した歯冠補綴物製作の変遷と将来」と題するご講演をいただきました。専門医研修会では、「口腔機能低下症の診察・検査・診断」を

取り上げ、服部佳功先生に「疾患概念と診断・管理の重要性」、小野高裕先生に「客観的に咀嚼機能を測る意義は何か?」と題してエビデンスを交えて解説していただきました。生涯学習公開セミナーでは、田邊憲昌先生に「これからの社会におけるスポーツ歯科の役割」、山森徹雄先生に「健康寿命を延ばすための「食力」を考える・超高齢社会における欠損歯列症例への対応」と題してご講演いただきました。今回は、約200名の方々にご参加いただき、一般講演4題、ポスター9題、専門医ケースプレゼンテーション5題の発表があり、それぞれ活発な討論が行われました。関係各位にこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

(奥羽大 高橋昌宏)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_359.pdf



● 関越支部学術大会

令和元年12月14日(土)、高崎市総合保健センター(群馬県高崎市)において、日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座、小出 馨大会長のもと、高崎市歯科医師会および群馬県歯科医師会の共催で令和元年度関越支部総会・学術大会が開催されました。一般口演8題、専門医ケースプレゼンテーション2題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

特別講演には、東京歯科大学口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室教授の武田友孝先生をお招きし、「スポーツ歯科がオリンピック・パラリンピックに寄与する」と題して、適切なマウスガードの設計や効果について、筋力発揮との関係からお話していただきました。さらに、スポーツクレンジングの効果について、クレンジングがバランスや頭部の固定に重要であること、しっかりと噛みしめるためには正しい咬合が重要であることなど、スポーツ歯科の重要性について素晴らしいご講演をしていただきました。

同日に行われた市民フォーラムでは、「歯を失ったあなたに合った治療法は?～ブリッジ?入れ歯?それ

ともインプラント?～」というテーマで、新潟大学歯学総合病院准教授の荒井良明先生にご講演いただき、ブリッジ、入れ歯、インプラントによる治療法について、市民の皆様にはわかりやすくお話しいただきました。支部専門医研修会では、明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野教授の大川周治先生から「全部床義歯の難症例への対策」というテーマで、概形印象採得のポイントや咬合採得で得るところについて臨床に役立つご講演をしていただき、日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座教授の河相安彦先生から「全部床義歯の機能評価と対応」というテーマで、食力の維持向上を実践することの必要性と全部床義歯の機能評価について、詳細にご講演いただきました。

今回の参加者数は80名を超え、合わせて市民フォーラム、支部専門医研修会も行われ、有意義で盛んな学術大会となりました。(日歯大新潟 水橋 史)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_381.pdf



●東関東支部学術大会

令和2年2月9日(日)浦和パインズホテルにて、明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野、藤澤政紀教授の大会長のもと、埼玉県歯科医師会の後援、埼玉歯科医学大会との共催にて令和元年度東関東支部総会・第23回学術大会が開催されました。

一般口演7演題、専門医申請ケースプレゼンテーション10演題が発表されました。参加者は計163名で、その内、学会会員120名、歯科医師会会員43名でした。同日には、生涯学習公開セミナーとして、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第I講座、志賀博教授と昭和大学歯学部高齢者歯科学講座、佐藤裕二教授を講師にお迎えして、『食力を測る』というテーマ

で、咀嚼機能を測る検査法、口腔機能低下症と効率的な診断法についてそれぞれご講演いただきました。また、日本大学松戸歯学部口腔健康科学講座、鈴木浩司准教授を講師としてお迎えし、彩歯健康アカデミー共催による市民フォーラム、『口から支えるオリンピック・パラリンピックアスリートへ健康・スポーツに対する口腔の重要性〜』も併催されました。市民にとってわかりやすい講演内容でした。短い時間ながらも充実した内容となり、参加者にとって非常に実りの多い大会となりました。(明海大 佐藤雅介)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_395.pdf



●東京支部学術大会

令和元年度東京支部総会・第23回学術大会が、昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療学部門、菅沼岳史大会長のもと、令和元年12月8日（日）に昭和大学上條記念館において開催されました。一般口演21題、専門医ケースプレゼンテーション9題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

学術大会後の生涯学習公開セミナーでは、昭和大学歯学部高齢者歯科学講座、佐藤裕二先生より「超高齢社会における口腔機能低下症への対応」というテーマで、口腔機能低下症の検査や管理についてご講演していただきました。東京都健康長寿医療センターから平野浩彦先生をお迎えし、「認知症の人への歯科治療」というテーマで、「認知症の人への歯科治療ガイドライン」を解説していただき、貴重なご経験談も交えて臨床例を供覧いただきました。生涯学習公開セミナー

後には、上條記念館内のバンケットルームにて会員間の情報交換や親睦を深める懇親会が行われました。

学術大会前日の12月7日（土）に行われた市民フォーラムでは、昭和大学歯学部歯科補綴学講座、横山紗和子先生より「インプラントの最新事情」と題し、インプラント治療の基礎知識から、トラブルなどの注意点、最新機器・技術などについて患者さんにもわかりやすくご講演していただきました。

今回の学術大会では316名の方々にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。（昭和大 菅沼岳史、佐藤多美代）

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_362.pdf



●西関東支部学術大会

令和2年1月11日(土)は鶴見大会館,12日(日)はパシフィコ横浜アネックスホールにおいて,令和元年度西関東支部総会・学術大会が,鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座,大久保力廣大会長のもと開催されました。本学術大会は,神奈川県歯科医師会(松井克之会長)のご後援をいただき,「食力向上による健康寿命の延伸」をテーマに,一般口演,ポスター発表,専門医申請ケースプレゼンテーションに加えて,教育講演,市民フォーラム,生涯学習公開セミナー,専門医研修会を企画致しました。

1月11日(土)の市民フォーラムでは,認知症に対する歯科治療の果たす役割について,神奈川歯科大学,木本克彦先生と眞鍋雄太先生にご講演いただきました。100名以上の参加者があり,活発な質疑応答が行われ,多くの市民からご好評をいただきました。その後の生涯学習公開セミナーでは,「健康寿命を延ばすため「食力」を考えるー磁性アタッチメントの有効性ー」をテーマに,マグネットアタッチメントの第一人者である日本大学,石上友彦先生と九州歯科大学,鱒見進一先生にご講演いただきました。

翌日の1月12日(日)午前には,一般口演9演題,

ポスター発表8演題が発表され,特に優秀な発表にイーストレキ賞が授与されました。また専門医申請ケースプレゼンテーション6演題の審査も厳粛に行われ,多くの専門医を目指す会員の先生方が参加されました。午後には,今年度新たに導入された本学会の修練医,認定医制度について,修練医・認定医・専門医制度委員会の河相安彦委員長から,教育講演として詳しくご説明いただきました。また神奈川県歯科医師会学術大会特別講演と併催の専門医研修会では,「有床義歯の難症例を攻略する」と題して,神奈川歯科大学,井野智先生から全部床義歯を,鶴見大学,鈴木恭典先生から部分床義歯を用いた難症例の攻略法についてご講演いただきました。

本学術大会は神奈川県歯科医師会学術大会と併催させていただき,参加者は300名近くを数え盛会裏に幕を閉じることができました。神奈川県歯科医師会と支部の先生方の多大なご尽力の賜物であり,紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。(鶴見大 西山雄一郎)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_400.pdf



●東海支部学術大会

令和元年10月26日(土)と27日(日)の2日間、JR岐阜駅に隣接した「じゅうろくプラザ」において、朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野、石神元大会長のもと、令和元年度東海支部総会ならびに学術大会が開催されました。本学術大会は、市民フォーラムと生涯学習公開セミナー、専門医研修会と共に企画致しました。市民フォーラムでは、朝日大学歯学部口腔病態医療学講座インプラント学分野、中本哲自先生をお招きして、「こわい?こわくない!?インプラント治療で知っておきたいこと」についてご講演いただきました。一般口演は10演題で1日目は3題、2日目には7題の発表が執り行われました。

学術大会2日目は、石神支部長のもとで総会を行い、生涯学習公開セミナーでは『健康寿命を延ばすため「食力」を考えるー健康寿命の延伸に補綴がどうかかわるかー』と題しまして、広島大学大学院医系科学研究科口腔生物工学研究室、二川浩樹先生に「デンチャープラークと義歯洗浄剤」について、大阪市でご開業の高

永和先生に「歯科金属アレルギーをちゃんと考えるー経験した2,000症例からわかったことー」について、それぞれのエキスパートの先生よりご講演をいただきました。

学会と併設して実施した専門医研修会では『メタルフリー修復における補綴治療のLongevity』と題しまして、大阪大学大学院歯学研究科クラウンブリッジ補綴学分野、峯篤史先生に「CAD/CAMレジン冠のArt&Science～今、分かっていること～」について、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座、新谷明一先生に「高強度硬質レジンブリッジのArt&Science～今、知らなくてはいけないこと～」についてご講演をいただきました。2日間の参加者数は延べ164名でした。

ご支援を賜りました関係各位に心から感謝と御礼を申し上げます。(朝日大 岡俊男, 澤田季子)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/file_n20191112.pdf



●関西支部学術大会

令和元年11月23日(土・祝日)に、令和元年度関西支部総会ならびに学術大会が大阪歯科大学創立100周年記念館(大阪市)にて開催されました。祝日での開催ということもあり、早朝から多くの先生方が参加されました。一般口演16題と専門医ケースプレゼンテーション3題が行われ、活発な討議が行われました。また、午後には大会長講演として佐古好正大会長が「補綴学会に期待すること」をテーマに講演されました。

翌24日には学術大会との併催として、生涯学習公開セミナー「咬合調整を極める」のテーマで、クラウンブリッジ系として本多正明先生(本多歯科医院)、床義歯系として池邊一典先生(大阪大学)、口腔インプラント系として上田一彦先生(日本歯科大学新潟生

命歯学部)が講演されました。補綴処置後の良好な機能を維持するために不可欠な「咬合調整」についてわかりやすく、多くの示唆をいただきました。

また、午後からは翌年がオリンピックイヤーということもあり、市民フォーラム「スポーツと良い噛み合わせで健康に」のタイトルで、前田芳信先生(大阪大学特任教授)の講演がありました。全身運動における噛み合わせの役割について、これまでの研究を踏まえ、わかりやすく解説していただきました。

多くの先生方に参加していただき、関係各位に厚く御礼申し上げます。(大歯大 田中順子)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_414.pdf



●中国・四国支部学術大会

令和元年度中国・四国支部学術大会が、令和元年8月31日（土）、9月1日（日）の2日間にわたり、岡本 信大会長のもと、福山市歯科医師会館において開催されました。

今回の学術大会では、一般口演発表6題、ポスター発表12題、専門医申請ケースプレゼンテーション3題の発表があり、広範囲なテーマの演題で活発な質疑応答が行われました。さらに、専門医研修会、生涯学習公開セミナー、市民フォーラムを併催し、内容の充実した大会となりました。

専門医研修会では、市川哲雄教授、岡本 信先生に「総義歯のベスト咬合とインプラントのベスト咬合を探る」という難しいテーマでご講演いただき、それぞれの治療法の立場から最新の情報を発信していただきました。生涯学習公開セミナーでは、「健康寿命を延

ばすため「食力（しょくりき）」を考える」というテーマで角谷真一先生、大町健介先生にご講演いただき、訪問歯科診療の現場で役立つさまざまな情報をご教授いただきました。市民フォーラムでは、「お口の機能の有名研究者がやさしく解説—どうすれば健康に食べて、肺炎にならない？お口と体の健康法—」というテーマで津賀一弘教授、池邊一典教授にご講演いただき、一般の方々に分かりやすくお話していただきました。

2日間を通して200名を超える方々にご参加いただき、盛況の内に会を終えることができました。準備や運営にご尽力いただいた皆様に感謝の意を表し、報告とさせていただきます。（岡山大 前田直人）

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_327.pdf



●九州支部学術大会

令和元年度九州支部学術大会は令和元年8月25日(日)、九州大学医学部百年講堂で開催されました。非会員の先生方にも多数来場いただき、どのセッションも立ち見が出るほどの盛況でした。

特別講演は、松浦尚志先生に「補綴治療を邪魔するもの」、都築 尊先生に「症型分類から見た超高齢社会における補綴戦略」というテーマでお話いただきました。お二人ともこの春に教授に就任され、新たに九州支部を引っ張って行かれる両名の示唆深い講演でした。

一般口演は8題、ポスターセッションは10題で、基礎研究・臨床研究、また大学だけでなく支部開業の先生からも幅広い発表が行われ、いずれの演題でも盛んにディスカッションが行われました。

併催された生涯学習公開セミナーでは「健康寿命を伸ばすため「食力」を考える 超高齢社会における補

綴治療—長期経過の視点から—」というテーマで武田孝之先生、梅原一浩先生にお話しいただきました。ますます高齢化を迎える患者に対して、われわれが提供する補綴の継続性、長期性という観点から多数の症例をお示しいただき、注意すべき点について解説いただきました。

市民フォーラムでは「嚙んでいきいき歯ッピーライフ！—健康寿命の延伸につながる口腔健康と栄養管理—」というテーマで松山美和先生にお話しいただきました。8年前まで九州大学でご活躍された先生の以前の患者さまも多数来場され、講演中もやりとりしながら大変盛り上がった市民フォーラムでした。

次年度は大学を離れて久留米市での開催予定です。

(九州大 諸井亮司)

プログラム・抄録集

http://www.hotetsu.com/files/files_319.pdf



令和元年度日本歯科医学会会長賞を受賞して

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座
クラウンブリッジ補綴学分野
矢谷博文

この度、歯科関係の最高の顕彰であるといわれる日本歯科医学会会長賞を受賞できましたことは、歯科医師としてこのうえない喜びであり、この度の受賞の推薦母体となっていたいただいた公益社団法人日本補綴歯科学会に深く感謝いたします。日本補綴歯科学会としてわたくしの推薦を決めていただいたのは市川哲雄前理事長であり、市川先生を含め大川周治現理事長ならびに学会役員の方々にもお礼申し上げたいと思います。

今年度の授賞式は、令和2年2月17日の日本歯科医師会館講堂で行われた第102回日本歯科医学会評議委員会の開催に先立って厳かに行われました。日本歯科医学会会長賞は、平成3年度に制定され、今回が29回目の授賞式ということになります。受賞部門は、研究部門、教育部門、地域歯科医療部門の3部門があり、私は研究部門で受賞させていただきました。今回受賞された方々は、私のほかに研究部門が西原達次（九州歯科大学学長・理事長）、山崎和久（新潟大学教授）、教育部門が石井拓男（東京歯科大学短期大学長）、桜井 薫（東京歯科大学名誉教授）、故 前田伸子（鶴見大学名誉教授）、地域歯科医療部門が砂川英樹（沖縄歯科医師会会員）の計7名でした。過去に日本補綴歯科学会から推薦し、受賞された方々は、平沼謙二先生、藍 稔先生、山下 敦先生、大山喬史先生、野首孝嗣先生、細井紀雄先生、川添堯彬先生、

福島俊士先生、平井敏博先生、赤川安正先生の10名であり、そのような偉大な方々の末席に名前を加えさせていただくことは望外の喜びであり、最高の名誉であります。

私のどのような研究業績が評価されたのかは知る由もありませんが、これまで多くの教室員に支えられて歯科補綴学とその関連分野において昨年の申請時点において著書・訳書46編、英文論文160編、和文論文73編、国際学会発表229題、海外特別・招待講演10題、国内特別、招待講演、シンポジウム51題と多くの業績を残すことができました。また、岡山大学・大阪大学通算で103名の大学院生の学位指導を行い、歯学博士ならびに博士（歯学）の称号を取得した研究者を輩出することができたことも大きな喜びです。広島大学、岡山大学、大阪大学と職場を変えながら、40年間にわたってひたすら歯科補綴学の発展に努めてきたことが評価されたのであれば、それに勝る喜びはありません。

私はこの3月末をもって大阪大学を定年退職の予定で、今後は一般臨床歯科医へと立場を変えることとなりますが、この度の受賞を機にさらに精進を重ね、これまで以上に歯科補綴学の発展に貢献していく所存です。ありがとうございました。



2019 International Seminar of the Indonesian Prosthodontic Association (IPROS)および 22nd Executive Council Meeting of the Asian Academy of Prosthodontics(AAP) 開催・参加報告

令和元年（2019年）8月2～4日の3日間、2019 International Seminar of The Indonesian Prosthodontic Association (IPROS: インドネシア補綴学会国際大会) がインドネシアの Solo Baru (the Best Western Premier Hotel) で開催されました [IPROS President: Dr. Doddy Soemawinata, Chairman: Dr. Silwanus Jan Febrianto].

また、同じ会期で、22nd Executive Council Meeting of the Asian Academy of Prosthodontics, Electing Board Members of Prosthodontic Collegium および 4th Annual Meeting of the Indonesian Academy of Cranio Mandibular Disorder (IACMD) も併せて開催されました。Opening Ceremony では、開始直前に 30 分早まったとのアナウンスがあり、急遽、早めに会場に入りましたが、結局予定通り、8月3日午前8時に開会となりました。開会式では政府関係者の挨拶が多々あり、JPS はじめ、各国補綴学会代表による挨拶はなかったことから、政府関係者への配慮があったようです。

IPROS や IACMD は 8 月 2 日からすでにスタートしており、Main Lecture が 19 題、Short Lecture が 51 題、Hands on が 11 題、Current studies and practices in TMD が 6 題と、多くの演題が発表されていました。

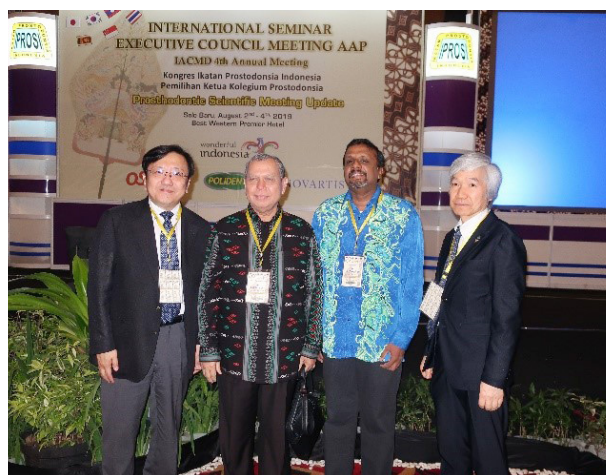
日本からは九州歯科大学の細川隆司先生が Main Lecture 13 の Invited Speaker として、“Dental Im-

plant for Aged and Metabolically Compromised Patients: A Novel Approach to Preoperative Screening and Risk Management” というタイトルで講演されました。多くの聴衆を前に、ジョークを交えながら熱弁をふるっておられました。実は、何らかの行き違いで、細川先生の講演は当初プログラムに組み込まれていませんでした。発表の機会を得られないのではと危惧しましたが、発表予定であった方が急病で来られない、ということで発表が可能になりました。JPS としては、非常に幸運でした。

AAP の Executive Council Meeting は、2019 年 8 月 3 日 10:00 から同じ会場で開催されました [AAP President: Dr. Doddy Soemawinata, AAP Secretary: Dr. Jacob John]。インドネシアをはじめ、日本、インド、韓国、台湾、中国、タイ、マレーシア、シンガポール、ネパール等、10 개국を超える国々から参加されていました。JPS からは、私、理事長の大川周治、前国際渉外委員会委員長の細川隆司、国際渉外委員会委員長津賀の代理で同幹事の土井一矢が参加しました。本 meeting では、以下の報告 (1～3) および協議 (4) がなされました。

1. 2018 年現在の国別 AAP 会員数について

日本 (269)、インド (100)、韓国 (82)、台湾 (56)、中国 (43)、タイ (20)、マレーシア (16)、インドネシ



ア (14), フィリピン (15), シンガポール (9), ネパール (6), パキスタン (4) スリランカ (3), Individual members (7) : 総計 (643)

2. 前回マレーシアで開催された第11回 AAP の参加国 (18 か国), 参加人数 (405 名)

3. AAP 2020 Award of 12th conference について, 以下の award の紹介

- AAP Shiau Award (From ROC Taiwan)
USD500, Related to TMD all/or occlusion research
- AAP Kim Award (Dr. Yung-Soo Kim)
USD each 250, Related to original research category and case presentation
- AAP Hiranuma-JPS Award in AAP 2020 (From JPS)
USD500, Related to prosthodontists in this region (Under 40 age).

4. AAP2020 について

The 12th Binneal congress of Asian Academy of Prosthodontics は, 2020 年 8 月 21~23 日に Indonesia (Bali, The Stone Hotel) での開催が決まっており, JPS からは Invited speaker として長崎大学の黒嶋伸一郎先生が発表されます。

なお, 2022 年以降の AAP 開催地については, 2022 年がフィリピン (承認済み), 2024 年が日本 (承認), 2026 年は韓国で開催の予定となっています。

(明海大学 大川周治)



The International College of Prosthodontists Meeting 2019 参加報告

隔年で開催される The International College of Prosthodontists Meeting が 2019 年 9 月 4 日より 7 日までの日程で ICP & EPA (European Prosthodontic Association) の Joint Meeting として世界遺産の街アムステルダムにて開催されました。補綴学会からは、Councilor であり Scientific Program Chair である馬場一美教授はじめ多くの補綴学会の先生方の参加と、Invited speaker として江草 宏教授: Emerging Approaches for Regenerative Prosthodontics, 筆者: How Can We Implement The Result of The Clinical Trial In The Prosthodontics Practice? および多田紗弥夏先生: Dilemma of Developing Dentistry in The Super Ageing Population: How can The Burden of Prosthodontic Treatments be Handled? Advances in modern society have succeeded in extending lifespan across の講演が行われました。また日本からの演題数は口演ポスター合わせて 36 演題と非常に盛んな内容でした。

参加した感想ですが、演題内容は、CAD/CAM, Multidisciplinary Approach が多く見られ、Implant, Denture, Occlusion 関連のトピックがそれらに続くボリュームであったと感じました。また、これらの演題と並行して Graduate Student Case Presentations のセッションが行われ、多くの若手臨床家が臨床症例を提示し、意見交換を行う大変興味深い内容でした。

会場の Beurs van Berlage はアムステルダム中央駅からすぐそばにある旧証券取引所であり、煉瓦造りの趣がある建物でした。会期の金曜日夜には、Presidential Reception & Banquet が行われ、各国コールが行われましたが、こんなに多くの補綴歯科医師およびその関係者が全世界から集まっているのを目の当たりにして感動を覚える晩となりました。次回は 2021 年 10 月上海で開催予定です。機会があれば是非参加されることをお勧めします。

(日本大学松戸歯学部 河相安彦)



公益社団法人 日本補綴歯科学会第5回補綴歯科臨床研鑽会 「プロソ'19」の報告

去る、2019年9月8日（日）に日本大学歯学部百周年記念講堂にて日本補綴歯科学会第5回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'19」を開催いたしました。当日は台風が接近するなか、250名を超える多くの参加者を得ることができました。今回は、国民から大きな期待が寄せられている高齢者医療への歯科医療の役割に焦点を合わせ、「高齢者への歯科治療にどう向き合うかー補綴歯科臨床の今、そして未来ー」とのテーマで、高齢者医療の最先端で活躍されている先生方から御講演いただきました。まず、シンポジウムⅠでは高齢者歯科治療の現状ーその使命と可能性とはーと題し、座長に関根秀志先生をお迎えし、荒川一郎先生（日本歯科大）から「咀嚼機能の検査、診断」について、さらに佐藤裕二先生（昭和大）からは、「口腔機能低下症の効果的な検査・管理」について御講演いただきました。シンポジウムⅡでは、高齢者治療のこれからとのタイトルで、座長に水口俊介先生をお迎えし、大岡貴史先生（明海大）から「在宅歯科医療における口腔機能回復の在り方」、武内博朗先生（武内歯科・鶴見大）から「咀嚼機能回復と保健指導の組み合わせは、体組成と代謝指標を改善する」、田山二郎先生（国際医療研究センター耳鼻咽喉科）からは、「高齢者医療活動に貢献するための組織づくりとその可能性」について御講演いただきました。さらに、日本全国から5名

の公募講演者に御講演いただきました。前田あずさ先生（岡山大）には、「緩和ケアを知る」、和智貴紀先生（九州大）には「治療計画を再考して高齢患者に対応する」、和田淳一郎先生（医科歯科大）には「部分床義歯は増加する高齢の歯周炎罹患者とどう向き合うべきか」、折祖研太先生（岩手医科大）には、「重度インプラント周囲炎を外科的なデブリドメントと自家骨移植の併用で治癒させた症例」、さらに谷口祐介先生（福歯大）には「光学印象システムとCAD/CAM技術を応用したインプラント上部構造製作方法の有用性についての検討」と、さまざまな視点から熱のこもった御講演をいただきました。

今回のプロソで、参加者は講師の先生方からさまざまな情報を得ることができ、高齢者歯科医療の現状と未来について大いに研鑽を積む機会を得たものと大変うれしく思っております。さらに、今後の補綴臨床にこの講演会の内容を生かしていただけることを大いに期待いたします。

最後にこの場を借りて本会が盛会の中、無事に終わりましたことをご報告いたすとともに、参加者ならびに開催にあたりご尽力いただきました実行委員会ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げます。

（大会長 黒岩昭弘，実行委員長 飯沼利光）



47th Indian Prosthodontic Society National Conference Raipur 2019報告

2019年11月28日より12月1日までライプルーで、第47回インド補綴歯科学会学術大会が開催されました。インド補綴歯科学会より学術大会での招待講演の講師として、昭和大学の馬場一美先生(日本補綴歯科学会副理事長)と九州歯科大学の細川隆司先生(日本補綴歯科学会理事・JPR編集委員会委員長)と愛知学院大学の竹市が参加しました。

馬場先生が「Impact of Digital Technology on Prosthodontics Treatment Workflow」と題して、細川先生が「Oral Bacteriotherapy: Making a Paradigm Shift in Dentistry -Game-Changing Approach to Peri-implantitis」と題して発表されました。また竹市が「Zirconia Resin Bonded Fixed Partial Denture: Science Behind and Clinical Application」と題して発表しました。

本学術大会への参加者は2,500名とのことであり、多数の学生も参加していました。学生たちは発表のみならず大会運営についても熱心に貢献しており、イン

ド補綴歯科学会のエネルギッシュな面を感じました。学術大会は上述の招待講演以外に、学生による研究発表(電子ポスター発表およびテーブルクリニック)があり、会場は熱気に溢れていました。学生たちの発表テーマは、①3Dプリンターを用いた積層造形②口腔内光学印象③オールセラミック修復④インプラント治療などでした。

レセプションでは10年にわたるJPS-IPS exchange programに対する感謝状が贈呈され、多くの本プログラム経験者も登壇し、それぞれから感謝の意が述べられました。

本学会参加に際してJPSの国際渉外委員会の先生方のご尽力ならびにIPSからのご厚意により、非常に快適に学会参加をさせていただきました。今回このような大変貴重な機会を与えて下さいましたJPSの先生方に、深く感謝申し上げます。今後多くの先生方にIPSと交流の経験をしていただきたいと思ひます。

(愛知学院大学歯学部冠・橋義歯学講座 竹市卓郎)



カボデンタルシステムズ株式会社との協定書調印式

市川哲雄 前理事長のご尽力により、カボデンタルシステムズ株式会社から「カボデンタルシステムズ臨床歯学教育事業」の一環として、本学会の公益目的事業2「補綴歯科専門医の認定等による専門知識と専門技能の普及振興を行う事業」に対して、ご寄附（令和元年80万円、令和2年80万円、令和3年80万円：計240万円）をいただくこととなりました。

令和元年9月13日（金）11:00から、カボデンタルシステムズ株式会社 本社（品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー15F）において、この協定書調印式が執り行われました。協定書調印式には、カボデンタルシステムズ株式会社側から、代表取締役社長の坂野弘太郎様、マーケティング部の細川稔晃様そして営

業本部の竹内 肇様、本学会からは私、理事長の大川周治と常務理事・総務担当の横山敦郎が出席しました。協定書調印式に際しては、各々の協定書の調印、交換とともに、本学会から本寄附に対する感謝状を坂野社長に、授与いたしました。

いただいた寄附は、具体的には専門医研修会および補綴歯科臨床研鑽会プロソの開催費に充当されることとなります。調印式は厳かでありながら、終始和やかな雰囲気の中で執り行われました。

カボデンタルシステムズ株式会社に対しまして、この場をお借りして、改めて心より感謝申し上げます。

（理事長 大川周治）



【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局（jpr-edit01@hotmail.org）まで、メールにてお寄せください。